

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'80
夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦選会館内
〒151

発行 一九八〇年六月一日

家庭科の男女共修をすすめましょう

一九八〇年代を迎えました。

いよいよ実質的な男女平等をすすめるべき時代です。

国連婦人の10年の後半にあたり、「世界行動計画」に基づいて、「男は仕事、女は家庭」という伝統的な男女の役割を変えて行くべき時代です。

七〇年代末に成立した「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」に基づいて、教育の中の男女差別をなくすべき時代です。

国際児童年は終わりましたが、日本のこどもの荒廃した生活をたて直すために努力を続けるべき時代です。

働き過ぎ、資源の浪費を反省し、生産よりも生命、生活をたいせつにすべき時代です。男も女も、生活についての知識、技術をしっかり身につけるべき時代です。

時代の流れに逆行する中学校「技術・家庭」の男女別学習、高等学校「家庭一般」の女子のみ必修を早く改め、全国の中学校・高等学校で家庭科の男女共修を実現させましょう！

一九八〇年四月五日 家庭科の男女共修をすすめる会（よびかけ文として総会で承認）

授業参観のおしらせ

男女共学「中学校家庭科」公開授業が行われます。おさそい合せの上で参加ください。

◇とき 六月十三日（金）午前10時～午後4時

◇ところ 川崎市高津区子母口三二一

川崎市立東橋中学校

◇授業者 持田ナミ先生

もくじ

家庭科の男女共修をすすめましょう	(1)
授業参観のおしらせ	(1)
'80年度総会報告	(2)
四月会議報告	(6)
中間年に関連して	(7)
文部省に要望書	(8)
早川崇氏より回答	(9)
生徒からもらった寄せ書き（長野）	(10)
共修問題に対する東京都の姿勢	(11)
埼玉県へ要望書	(12)
大分県の行動計画	(12)
教科書検定制の中での性差別	(12)
女性は今・に出演して	(13)
世話人会報告	(14)
パンフレットを活用してください	(15)
おしらせとお願い	(16)

午前（3・4校時）は一年一〇組の調理実習

（調理室）、午後（5・6校時）は二年一組の

住居（教室）です。参加要領、道順等につい

ては16ページをご覧ください。

'80 年度 総 会 報 告

四月五日に婦選会館で開かれた総会は、新しい会員の出席が多く、たいへん若々しい雰囲気でした。

まず会員が自己紹介、続いて市川房枝さんのお話をきいて議事に入り、一九七九年度の運動のまとめと決算、一九八〇年度予算は報告、提案通り承認、一九八〇年度の運動方針は字句修正の上承認されました。

市川房枝さんのお話(要旨)

◆家庭基盤充実政策について

これは大平総理が言い出して自民党がとり上げたことで、自民党の発表した考え方の中には「女よ、家庭に帰れ」とは書いてないが、その思想が下にある。福祉の安上りをめざして国が責任を持つべきことを家庭に押しつけ、「老人、子どもは家庭でめんどうをみる」と言って女を家庭に縛りつけようとしている。この政策は、労基法「改正」による保護撤廃とともに、婦人の地位向上の流れを引き戻そうとする政策だと言える。

◆家庭の日について

そうした自民党の考え方の中から「家庭の日」が出て来た。

総理府でつくった「家庭の日に関する懇談会」では、女の委員四名のうち一名が消極的賛成、三名は強く反対し、男は大体賛成だった。結局賛否の意見を並べて書いた答申を出したので、お流れになったかと思っただ。

ところが総理府で行った「家庭の日に関する世論調査」で賛成47%、反対18%という結果が出て、また法案を出すことになってしまった。世論調査は問の出し方によって結果が違ってくるので、この調査はおかしいと思う。

家庭とはどういうものか、家庭の日に何を求めるのかははっきりしないまま強行するのは問題だ。家庭を大事にするなら、労働時間を短くして男を家庭に帰すべきではないか。

「家庭の日」反対の運動を考えて行かなければならないと思っただ。

◆参議院の婦人問題集中審議について

婦人問題について集中審議をやってほしいという話は前から出ていたが、参議院予算委員会理事に女(共産党の沓脱さん)が入り、他の党派の女性も働きかけをしたおかげで実

現できた。

二院クラブの割当時間は質問と答弁を含めて十二分だけ、しんがりでもあったので、他党と重ならないように考えて、婦人少年室の異移管の問題と売春の問題について質問した。婦人少年室を県に移管すると実質的になくなってしまう、労働婦人対策、婦人年の行事も地方ではすまなくなり、労働省婦人少年局も弱められる恐れがある。婦人少年室の予算はいくらでもないし、必要な仕事をしているのだから廃止してはいけないと思う。

集中審議をしても決議にはならないので、どれだけ効果が出てくるかはわからないが、これからは集中審議はやりた。

◆国連婦人の10年推進議員連盟について

婦人議員だけが婦人問題をやっていてはいけないので、男性も含めて議員連盟をつくった。会員は今200人、すすんで入る男性も多かった。山口シヅエさんが会長、私も幹事の一人になっている。

「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」の批准を早くしなければいけないと思っている。文部省は家庭科の問題があるので消極的だし、分娩費や国籍法の問題もあって、すぐにはむずかしそうだが、何とか婦人の10年の間に批准が行なわれるよう働きかけたい。

議 事

1. 一九七九年度の運動のまとめ

報告 半田たつ子

(1) 組織の拡大・強化。

- 会員 一年間で四七〇人→五五〇人。
- 世話人会 一二回開催。
- 会報 四回発行。

(2) 世論に訴え、理解を深める。

- 会員名簿 追加・訂正を二回発送。
- 各地域の会員との交流 福島、岐阜。
- 出版物販売 教研集会等、他団体の集会、世話人が講師となった会。

(3) 研究集会

- 研究集会 四月二日、七月七日、一月一九日の三回。
- 授業参観 九月一日、十一月一日。
- アンケート 小学生と家庭科

(4) アンケート

- ・世話人アンケート・会員アンケート
- 教科書会社へ働きかけ。

(5) 小学校の教科書は

- 小学校の教科書は少しくなる。
- 高校の教科書に意欲的な出版社も。
- 共修を具体的にすすめるために。
- ピンク・パンフ販売、オレンジ・パンフ発行、相談窓口をつくる。

2. 一九七九年度決算

報告 馬場 洋子

収 入		単位 円
前年度繰越金	34,760	
会 費	646,500	
カンパ	139,280	
雑収入	82,025	
集会参加費	41,950	
会報等売上げ	40,075	
計	902,565	
支 出		
会 報	301,000	
印刷費	176,400	
発送費	120,000	
運搬費	4,600	
集会費	61,690	
会場費	24,690	
案内状	4,000	
謝 礼	33,000	
アンケート調査	18,900	
小学生アンケート	8,900	
会員アンケート	10,000	
その他送料(教科書会社)	1,150	
事務所代	69,600	
アルバイト代	180,000	
日本大会実行委加盟費	10,000	
〃 分担金	20,000	
雑費(用紙、封筒、文具等)	94,710	
計	745,050	
翌年度繰越金	157,515	

パンフレット会計

売上げ	414,200
黄パンフ	94,700
赤パンフ	66,600
ピンク・パンフ	252,900
支払い	356,575
ピンク・パンフ印刷	284,935
黄パンフ増刷	71,640
残	57,625

別に「家庭科なぜ女だけ」印税 81,600

- 都行動計画実施細目について要望書。
- 都教育研究所訪問。
- 都婦人情報センター開設一周年記念懇談会で意見を述べる。
- 京都府・市・同教職員組合に要望書。
- 新知事へアンケート。
- 行動計画を発表した県に意見書、要望書。
- その他
- 国連婦人の10年中間年日本大会実行委員会、常任委員会に参加。
- 自民党「家庭基盤の充実に関する特別委員会」委員長早川議員に質問書。

○労働省の募集に応じて活動報告を提出。
○ドメス出版「日本婦人問題資料集成」生活篇に、ニュースNo.13の内容が転載された。

△総括▽
◎活動は地道で多彩であるが、会費の徴収に難点がある。
◎マスコミがあまり取り上げなくなった中で、いかにして世論にアピールする活動を行うか。
◎各地域で活動を盛り上げるにはどうしたらよいか。

4. 一九八〇年度予算

提案 青山 和世

収 入		単位 円
前年度繰越金		157,500
会 費		875,000
計		1,032,500
支 出		
会 報		451,800
印刷費		280,000
発送費		151,800
運搬・雑費		20,000
集 会		144,000
会場費		48,000
案内状		16,000
謝 礼		80,000
名 簿		41,000
印刷費		25,000
発送費		16,000
その他送料		10,000
世話人会報告発送費		18,000
事務所代		69,600
アルバイト代		216,000
ちらし印刷費		15,000
予備費		67,100
計		1,032,500

3. 一九八〇年度運動方針

提案 中嶋 里美

△基本方針▽

全国の中学・高校で家庭科の男女共修を実現させることを目標とする。

△具体的な活動▽

1. 国連婦人の10年中間年に関連して
イ 日本大会実行委員会に参加。
ロ デンマークで開かれる民間会議「フォーラム」に参加。
2. 組織の拡大、強化
イ 入会勧誘のための新しいちらしを作る。
ロ 新会員の拡大に努める。年間目標100名以上。
3. 地域に共修をすすめるための核を作る。
ハ 地域に共修をすすめるための核を作る。
ニ 世話人会の定期開催、記録を残す。
ホ 会報の定期刊行(年4回)。
ヘ 世論に訴え、理解を深めるために
イ 「家庭科なぜ女だけ」をはじめとして、3種のパンフの紹介、販売を積極的に行なう。
4. 集会の開催。
ハ よその団体へのアピール、集会参加。
5. 教科書について
イ 新しくできた教科書のチェックをする。

ロ 男女共修にふさわしい教科書を推せんする。

5. 共修を具体的にすすめるために

イ ピンク・パンフ、オレンジ・パンフを現場の教師を中心にたくさんの人に読んでもらう。

ロ 共修家庭科の授業参観を行なう。

ハ 共修家庭科の内容研究をすすめる。

(別学の場合も含めて)

6. 行政機関等への働きかけ

イ 婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約を早急に批准するよう各方面へ働きかける。

ロ 文部省、総理府等に必要に応じて働きかける。

ハ 各地方自治体に必要に応じて働きかける。

7. 財政基盤の確立

イ 会費滞納者をなくすようにつとめる。

ロ カンパは積極的に集める。

5. 世 話 人

提案 梶谷 典子

一九八〇年度は次の二十五名

青木千枝子(横浜) 市川 房枝(東京)
青山 和世(東京) 小野塚サチ子(長岡)

討 論

△共修ということば▽

今年もまた「共修」というべきか「共学」ということばを使うべきか議論になりましたが、「共学」と「必修」の両方の意味をこめて、原則として「共修」ということばを使うことが確認されました。

△会費値上げについて▽

値上げ自体には反対はありませんでしたが、未納者が多いことが問題になり、会費の集め方について話し合われました。一人一人の会

員が参加感を持てるようにしなければいけないという提案もありました。特に名案は出まらなかったが、努力を続けるべきことが確認されました。

話 し 合 い

議事にかなり時間をとったため、ひとことずつ発言することしかできませんでした。新鮮で頼もしい発言が続きました。

「研究授業に参加したい」という大学生、「勉強して行きたい」という家庭科教員一年生、「区」の行動計画づくりに参加しているのも共修を盛りこみたい」「婦人有権者同盟でも教科書の中の男女差別について調査している」「共修実施が認められたのがんばっている」という報告もありましたが、「共修をすすめようと思ったが逆の方向に動いてしまった」「都の定員削減の影響で共修が足ぶみしている」という話もあり、「総会というのに職場の研究会のようにささやかなのに驚いた。会費未納者の多いのにもびっくりした」という発言に、運動になれてしまった世話人は反省させられました。

司会 和田 典子
記録 梶谷 典子

国連婦人の10年中間年

四月会議報告

四月十二日 於・主婦会館

開催の経過

一九七五年、全国組織の婦人団体と労組婦人部41団体は協力して民間の「国際婦人年日本大会」を開きました。当日は約二〇〇〇名が東京の共立講堂に集まり、婦人の現状を検討し要求と決議を政府や関係団体に提出しましたが、この大会は初めての民間婦人の市広い統一集会として画期的なものでした。

中間年の今年、国連が「国連婦人の10年・一九八〇年世界会議」を開催するにあわせて、民間側としても再度、日本大会を組織することが、市川房枝氏から提唱されて各団体に参加のよびかけがされました。

一九七九年、11月22日、第一回の会合で、実行委員会が発足し、集会の開催が決定したのを皮切りに、第二回の12月17日以降、1月28日、2月27日、3月10日、3月24日、4月8日と集会準備のための協議や実務的な打合わせが行なわれました。当日までに参加を決定した団体は、前回よりさらにふえて48団体にのぼり「すすめる会」もその一団体として参加、常任委員として協力しました。

毎回の実行委員会への提案については、会

に先立つ常任委員会で検討されましたから、四月会議当日の4月12日までは、各都委員

会もふくめれば約6ヶ月、二十数回の会議が

もたれ、内容、運営についての準備がすすめ

られたこととなります。

当日のよう

参加団体48団体、各団体平均5、6名のほか政党、自治体及び報道関係者など約三百名が出席して、四谷の主婦会館で開かれました。后一時半、四時半という短時間の日程なので分ぎさみの進行で、自由発言の時間が不足したのが残念でした。

「会」は開会の辞（和田典子）と受付を担当しました。司会の中村紀伊さん、議長は大羽綾子、鍛冶千鶴子の両氏、基調報告は委員長

の市川房枝さんでした。各分野の問題提起

は、前の日本大会の決議をふまえて、男女平等や婦人の地位向上の運動がどのように展開されたか、その成果はどうか、今後の課題として残されている問題はなにかという視点からまとめられたものでした。政治——紀平悌

「会」から実行委員会に参加することになり、準備段階で各分野の活動のまとめの討議に参加し、わたしたちの会の運動が他団体にくらべて遜色がなく充実したものであったことを、改めて確信しました。また、思想・信条をこえた婦人の統一と連帯を守り発展させることの歴史的な自覚を一段と深めました。

（和田 典子）

★婦人問題集中審議では

三月二十八日の参議院予算委員会の婦人問題集中審議でも、家庭科の問題が出ました。自由民主党の石本茂議員の「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約批准に関して国内法に問題があるか」という質問に対して、外務省国際連合局長賀陽治憲氏は次のように答弁しています。

平等のための新立法、国籍法の問題に触れたあと「たとえば女子生徒の家庭科の必修問題、これを本条の解釈に一体頼る（これは速記者の聞き違いと思われる）『耐え得る』でしようのかどうかという問題もあるわけ

で、いわば男子に家庭科の必修を命ずる必要があるのかどうかというよう

な問題も派生的にはあるわけでございます」と述べ、最後にまた雇用の問題に言及しています。男女平等を考える上で、家庭科の問題はかなり重要視されていると言ってよいでしょう。

「『家庭の日』制定反対。『家庭基盤の充実』をすすめることが、男女の役割分担の固定化につながらないようにすること」

が入り、家庭の日法案を見送らせるひとつの力になりました。

★四月会議でも男女共修を要求

四月十二日の「四月会議」で決定した「決

★四月会議のプログラム・資料

四月会議のプログラム・資料がお入用の方

議・諸要求」の中にも家庭科の男女共修が盛りこまれました。

「政府・自治体に対しての要求」の十項目めは次の通り。

「学習指導要領、教科書を検討し、教育内容を男女同一にすること。特に家庭科は男女別学習、女子のみの必修を改め、男女共修とすること」

また十一項目めは

「高校を含めて公教育を国が保障し、男女共学の完全実施をはかること」

二十三項目めには

「『家庭の日』制定反対。『家庭基盤の充実』をすすめることが、男女の役割分担の固定化につながらないようにすること」

が入り、家庭の日法案を見送らせるひとつの力になりました。

★がっかり、総理府映画

日本の婦人の現状を各国に知らせるために、総理府がスポンサーとなって「日本の婦人像」という映画がつくられました。

「婦人問題の扱い方が何とも甘い」「お役所がつくるのだからあたり前」といった声がかれますが、家庭科共修にも触れています。中学校で男女生徒が生き生きと調理実習をしている画面はよいのですが、「家庭生活を男子に理解させるためのひとつの試み」という説明にがっかりさせられます。

教育の中の男女差別をなくし、伝統的な男女の役割を変えて行くために、女子のみの家庭科はあってはならないのだという考え方を海外にも知らせる努力をしたいものです。

フィルム（16ミリ、カラー、27分）は、総理府婦人問題担当室から無料で借りられます。

文部省に 要望書

この四月、新学習指導要領のもとに、小学校の授業が始まりました。来81年度は中学校で男女別領域指定のある技術・家庭科が、82年度には、高校で従来通り女子のみ必修の家庭一般が実施されます。

昨79年十二月、国連総会で採択された「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」の10条には「同一の教育課程」と明記され、日本政府はこの条約の成立に賛成しました。しかし、来年度以降実施される中学、高校の新教育課程は、この条約に反するものです。

家庭科の女子必修は問題があるということ、で、次の改訂には、技術一般という教科を設け、技術と家庭を男女の選択必修にしようとする動きがあるといううわさもあります。

すすめる会は文部省に対し、「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」の早期批准を武器に、一日も早く男女共修の家庭科を実現するよう、教育課程の改訂を求める要望書を提出しました。（差別撤廃条約）の関係部

分にアンダーラインを引いて同封しました）

要 望 書

一九六七年「婦人に対する差別撤廃宣言」を採択した国連は、昨一九七九年十二月十八日の第34回総会で「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」を提案、一二〇か国の賛成で可決、採択しました。日本政府ももちろん賛成しており、一日も早く国会の承認を経て、この条約を批准することが望まれます。

この条約の第10条には「教育の分野で男性と同等の権利を確保するために、婦人に関する差別を撤廃するために、あらゆる適当な措置をとるもの」として、各国は(a)から(h)まで、八つの事を保証すると記されています。とりわけ「(b)同一の教育課程」「(c)男性及び女性の役割に関するいかなる定型的概念をも撤廃するために」と明記されています。

このことは、婦人問題の集中審議を行った三月二十八日の参議院予算委員会でも問題になり、外務大臣や国連局長は「国内の現行法規との関係で調整を要する問題がある。女子生徒の家庭科必修、男子に家庭科の必修を命ずる必要があるかどうかその一つ」と答えています。

一九七一年、中央教育審議会が答申した男

女の特性にもとづく教育、はもはや時代の進展に合わないものです。また、中学校技術・家庭科の男女別領域指定、高等学校家庭一般の女子必修は、国際社会に通用しないばかりでなく、差別撤廃条約に賛成した日本政府として、矛盾をかかえることになります。

文部省においては、中央教育審議会に諮問して、「男性及び女性の役割に関するいかなる定型的概念をも撤廃」し、教育課程審議会を発足させて教育課程を改訂し、中学・高校が「同一の教育課程」を編成して、一日も早く男女共修の家庭科を実現するよう、ここに要望します。

一九八〇年五月六日

「家庭科の男女共修をすすめる会」

世話人代表 市川房枝

谷垣専一 文部大臣 殿

写しを次の文部省関係者に送る。

初等中等教育局視学官 小笠原ゆ里

職業教育課長 河野石根

職業教育課教科調査官

津止登喜江

なお、津止さんは今度東京都教育庁から文部省にうつられました。

(馬場 洋子)

早川崇氏より回答

―家庭基盤充実政策の中の家庭科
共修に関して―

一月末に早川崇氏(自由民主党家庭基盤の充実に関する特別委員会委員長)に、家庭基盤充実政策の中の家庭科共修の内容等について質問したが、度重なる催促にもかかわらず回答をもらえず、ついに「この問題に関して早川氏は軽視していると考えてよろしいのでしょうか」の電話で翌日速達で届いた。「秘書の手違いによりたいへんご返答が遅れましたことをお詫びします。」の言葉を添えて、以下が質問要旨とその回答全文。

質問一、戦後の男女ともに学ぶべきものとしてスタートした家庭科が女子のための教科のようになってしまったのは何故か。

答 男女の役割分担の意識はそう短日月に変化できない。戦前の社会風潮の流れと、女子の上級学校への進学率や共働き家庭が現在ほど多くなかった社会の実体と、家庭ということの教育は男女に全教科とくに社会科、道徳の中で行うという文部省の方針

があり、母性教育は家庭科ですべきであるという社会的要請が底流にあるなど、多くの要因の積み重ねによるものである。

質問二、家庭科がなぜ技術偏重になっているか、これを是正するためにはどうしたらよいか。

答(一) 現在の家庭科教員、大学の家政科部門が衣服と食物に偏重している実体がある。このため免許法の改正が一部から持出されている。

(二) 家庭科を男女共修にすべき内容として家庭の意義、家庭管理、家庭経済、家族関係等の分野を受持つ教員の能力の養成。

(三) 家政学そのものの学術的分野の確立と近代化、改革が内部的になされることも大きな要因であろう。

四 さらに家政学会が社会的に力を持つようになることも大切である。

五 われわれは家政学会からの具体的意見を受止める気持でいる。

質問三、家庭科教育の充実強化は小学校に重点を置くか。中学校、高等学校においても同様に、或は、それ以上に重要と考えるか。

答 一貫した体系的な子供の発達段階に適応して構成されるべきものと考えている。

質問四、具体的な教科内容案、あるいは内容検討のスケジュールがあるか。

答 党の「家庭基盤充実に関する特別委員会」としては内容検討のスケジュールは今のところない。各団体、各学会が研究をすすめる多くの具体案が出されることを望んでいる。

質問五、教育課程は男女同一であるべきことが国連の「婦人のあらゆる形態の差別撤廃条約」にあるが、この条約の早期批准に努力するか。

答 批准のための国内の条件整備に努力する。

以上がお答えですが、一つ質問があります。「母性教育」は皆さまはどの教科で、何時行うべきか、どのようなお考えかお答え下さい。(この質問については世話人会で検討して、お答えしたい旨手紙を出しておいた。)

(中嶋 里美)

長野から
生徒からもらった
寄せ書き

佐藤美枝子

上高地線の車窓の景色は四季を通じて素晴らしいのですが、わけても、五月のそれはたとえようのない程です。年毎に増加していく沿線の家々の庭を飾る樹木の若葉と花の絶妙なコントラストもさることながら、雄大な北アルプスの残雪の姿は、信州に生まれ育って久しい私共でさえ「胸の痛くなるような」美しさです。

人生の過半数にわたる才月を梓川高等学校の教員として務めさせていただいた私は、今年の四月、やはり県立の松本筑摩高等学校に転勤致しました。転勤にあたって一番心に掛かったことは「共修家庭科」の問題でした。教育課程の校内委員会の折にも、個人的にも「あなたが出てしまったら共修は心配だ。現に他校でも共修実践者が二人転動した後は、厳しい状態だっていうよ」などと、ありがたい心配をしてくださる方々が多かったのですが、後任として、長野吉田分校で二年間の共修実践経験のある才媛の市川先生がきてくだ

さることになっていることと、青木先生が、とても地道な実践を積み上げておられ、特に今年は一年生のホームルーム担任を志願される程に逞しい飛躍を遂げておられるから、「老兵が去る」には絶好の機……と安心していただき、黒つぐみの囁りの美しい梓川高校とお別れをいたしましたわけです。若いお二人には、「手を取り合って、一層発展させていってくださいね、全国の方々の公開授業も梓川で引き受けてくださいよ」とお願いをしました。新卒で共修校勤務をされた他校の若い方々の喜々とした実践報告を聞きながら、共修を広めるために若い方々との人事交流は必要と日頃考えていた事が今回叶えられたわけです。さて、老兵の私のなすべきことは……嬉し

いて、家庭科の内容が生活技術の伝承だけだったら此のような価値観を育てることは出来なかつたらうと、向山先生は述懐されています。私は、食物を担当しているのですが三十数名の講座の大半は男性で両性ともに面接授業では一言半句も聞き洩らさじとばかりに、ひた、と教師に目を据えていますので、圧倒されてしまいます。両性で行なう調理実習も実に楽しいものです。全日制の授業は、女子だけで、一、二年の家庭一般を八時間担当しています。前任校の共修の家庭科の話をしますと、身を乗り出して聞き入っています。一年生に「私の家族」という題で書いてもらうと、共働き家庭の生徒からは、父親の協力不足と母親の過重労働が指摘され、男子にも家庭科を……に共鳴する響が記録されています。副担をしていた生徒達から寄せ書きと素的なアルバムが届きました。「筑摩でも、共修で楽しい授業をしてください」「何でもよく食べてお元気で」やせのH君は食生活の学習の折のお返しを贈ってくれたのです。それを見て「世話人」をお引き受けしようと思いいったのです。よろしく願います。

共修問題に対する

東京都の姿勢

―教育研究所訪問、情報センター
の集いでわかったこと―

四月一日、東京都立教育研究所に、梶谷・駒野・半田が、刀祢館尚子、舟木美保子両所員を尋ねました。東京都の行動計画には、「男女平等観にたった人間形成の推進」のために「中・高等学校家庭科における男女共修の推進」が施策として明記され「技術・家庭科が一部男女共修となるので、学習内容・方法などの検討を行い、その円滑な実施をめざす。高等学校の家庭科については、男女の共修を旨として、そのあり方、方法などについて検討をすすめる」と記されています。また、54年度における新たな事業として、「I男女平等観にたった人間形成の推進」の1に、「高等学校『家庭科』における男女共修についての学習内容・方法の検討及び実験研究の実施」があげられています。

ところが、「研究所は、現場教員の希望に沿った研修のプランを立てるところ。圧倒的に希望が多いのは授業研究だから」ということで、「共修のための学習内容・方法の検討」ど

ころか、指導要領準拠の指導法――「共修どこ吹く風」といった研修プランに、啞然としました。中学校の相互乗入れの履修形態について希望を調査しているが、紀要に載るのは一年も先のこと。家庭一般について、現場に尋ねたところ、共修賛成44%、わからない18%、残りは反対（引き算すると38%）だから、共修不賛成のほうが多い、と見ているとのこと。都行動計画実施細目で、都研が行うのは「男女平等教育研究委員会の設置」だから、男女平等教育をやりたいとのこと。

その男女平等教育に反するのが、現行の技術・家庭科、家庭一般ということとは、気付いていないふりで、共修実施のための研究にすら、まともに取り組んでいないことを残念に思いました。さらに昨年度教育庁を尋ねた時、「指導要領がこうだから」と、ひたすら指導要領準拠の姿勢しか示さなかった家庭科指導主事津止登喜江氏が文部省に入ったとの情報を聞き、がっかり。でも、その津止氏が昨年十二月に調べた都立高校の「家庭一般」男子履修校一覧を入手しました。学校名はオレンジパンフに載せましたが、数は左記の通りです（全は全日制。定は定時制）。

四単位必修―全1・定6、三単位必修―全1、二単位必修―全2・定13、四単位選択―

全2・定4、二単位選択―全1・定3

四月二日は、都行動計画の施策実現第一号として開設された東京都婦人情報センターの一周年を記念する集いがありました。元婦人問題会議委員、元婦人会館建設準備会委員、都行動計画策定に関して要請のあった67婦人団体が招かれ、和田・梶谷・半田が出席。

同センターは、日比谷図書館の四階にあり、婦人教育会館の構想が財政難から後退、美濃部都政最後の新規事業として開設されたもの。婦人問題や女性の社会活動についての学習・研究のための情報提供、団体・グループ・個人に交流の場の提供、相談・助言を行っています。利用者は一日平均二六人とか。

センター運営経過報告、婦人関係行政一般報告のあとの懇談で、和田さんの質問に対し都教育庁指導部の緒方氏は「共修はいいが共学はいけないと指導したことはない。高校までの学習経験に男女で差があるので、同じ教育をするのは難しい。差があることを受けとめて教育課程を組めと指導しているのが、誤解されたのではないか」と答えました。差をつけたのはだれか？ 都教育庁への強い働きかけの必要性を痛感しました。

（半田たつ子）

埼玉県へ 要望書

今年の一月、埼玉県の行動計画が完成されたが、その中で家庭科の共修については、昭和五十七年から六〇年の間に「男女共修についての研究委員会の設置」となっており、これでは共修実現が婦人年間にすら出来ないことも予想されるので、一日も早く共修実現を可能にしてほしい旨、左のような要望書を県知事、教育委員長、教育委員会企画調整課長、婦人対策課長、高校長協会会長、家庭科指導主事に四月末に送附した。

「婦人の地位向上に関する埼玉県計画」完成おめでとうございます。県計画にもとずき一日も早く男女平等が実現されますことを心から念願しております。私たち家庭科の男女共修をすすめる会は昭和四十九年に結成され、中学、高校での家庭科の男女共修実現のためさまざまな運動をしてまいりました。県計画によりまずと家庭科の男女共修につきましては昭和五十七年から六〇年の間に「高等学校家

庭科の男女共修についての研究会の設置」となっております。そういったしますと研究結果の発表はその後になり、一日も早く家庭科の男女共修実現を願っております私共にとりましては大変残念なことになります。

すでに御存知のことと思いますが、昨年の十二月国連で採択され、日本政府も賛成致しました「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」の中でも、「男女共に同一教育課程を学ぶ必要がある」ことが明記されております。また現在のように男子が家庭科をうけられないことは、男子を未熟で生活的にも自立していない大人にさせてしまいます。以上の点から県計画の家庭科の共修につきまして次のことを要望します。

- 一、各学校で家庭科の男女共修が実現出来るように推進して欲しい。
- 二、県計画の中の「男女共修についての研究会」の設置時期を再検討し、家庭科の男女共修の早期実現のために努力してほしい。
- 三、「学校教職員の研修の充実」の中で家庭科の男女共修の重要性について十分な資料提供及び研修を行うこと。

(中嶋 里美)

大分県の 行動計画

三月に大分県の行動計画ができました。たいへんあいまいな表現ではありませんが、伝統的な男女の役割分担を変えて行くために家庭科の履習方法を見直すべきこと、男女が学ぶ家庭科の内容を検討すべきことが述べられています。

(梶谷 典子)

四月二十六日 検定官はこんな女がお好き——教科書検定制度的 中の性差別

国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会定例集会

教科書の問題は、出版社との交渉だけでなく、検定制度にもメスを入れないと根本的な解決はないとこの集会がもたれた。家永裁判闘争を通じて、国が期待する女性像が明白にされた(吉武輝子)。女性の問題を出すといちいちひっかかる、極く普通の女性観を書

いたのに、文部省はわざわざ女性のことを書くことが気に入らない(山領健二)と、検定制度は思想検閲、言論表現への圧迫であり、必ず女性問題の記述がひっかかっていると配られた資料をもとに報告。又同会からは、マ

ラソンについての生徒の作文中、男女を入れかえて教科書に載せられた問題や、NHK TV英会話テキスト中の問題に対する抗議活動についての報告も出された。討論に移って、参加者からの体験やこの問題への具体的な取り組みについて活発な意見が出され、次の二点を入れた決議文を文部省検定課、文部大臣に渡すことで集会を終了した。①検定基準の中に性差別をなくす項目を入れる、②学校教育の中のあらゆる性差別をなくすためのガイドラインを作り、地方自治体への通達、地方自治体による研修会講習会開催、政府はそのための助成金を出す等の具体的な行政指導を行うよう、要請する旨。

又、英語の検定調査官小笠原某より、『教科書が時代遅れなのは、執筆者、編集者の頭の古さ故であり、検定官が指導しても出版労連が変えないからだ』という内容の電話が同会にあったことも披露され、参加者一同あ然。

(芦谷 薫)

テレビ朝日

「女性は今」に出演して

和田 典子

この番組は「婦人の10年」中間年のキャンペーンとして、総理府が提供しているシリーズものです。放映は毎週休日の11時15分から三十分間おこなわれていますが、その第8回、ボク中学でも家庭科の勉強したい、樋口さんと和田がゲストとして出演しました。

もう一人は、村田英一氏、VTRで俳優の森山周一郎氏も参加しました。司会は大木元教子さんでした。

現在、中学・高校では女子にくらべて、男子の家庭科教育が、格段に少ないが、共働きの増加や、家庭内の男女協力が求められているいま、家庭における男女のあり方をふくめた家庭科の授業が、男女平等に行なわれなければならぬことを考える、というのが番組の趣旨で、フロアには、若いお母さん方約15名も同席して、すすめられました。

まず、タイトルバックに小学校家庭科の調理実習風景が紹介されたのを皮切りにして、スタジオの母親たちの意見が出されたのを受けて、中学・高校の現状、男子が家庭科を学

ぶ意義をゲストが発言します。

ついで、昭和一ケタ代を代表して、森山さんの見事な家事労働ぶりとその反して何もできない息子さんの実状が紹介され、若い世代の生活に対する全く無能な実状が話題になりました。

家事をやらせない背景や、その問題性が、ゲストから指摘されたあと、再び小学校の授業風景と「中学校へいっても家庭科をやること」に全員が賛成の声をあげるVTR。

また、中学・高校の男子も、家庭科の授業に興味を示し、評価しているにもかかわらず、女子のみの教科にしていることは実状にそわず、役割分担を固定化、再生産して問題である。そのほか、家事処理のために結婚をしたり、生活がみえない男性が権力をもつことで社会生活を歪めるなどの問題もあることが指摘されました。

尚、樋口、木元さんはひきつづいて、このシリーズを担当されると聞いています。

番組の中の圧巻は、森山さんのボタンつけ、ミシン操作の手なれた仕事ぶり、スタジオからはいっせいに歓声があがるほどでした。そのほか、フロアのお母さんたちに、共修の意義をもっと知って貰う必要を痛感しました。(5月22日放送、5月3日録画)

世話人会報告

三月十五日

△報告事項▽

- ◆国連婦人の10年中間年国内行事の進行
- 実行委員会の進行状況
- 四月会議の報告の内容
- 実行委員会の分担金二万円を納入
カンパをしてくださった方に感謝します。
- ◆国連婦人の10年中間年NGOフォーラム参加について
- 参加申込の用紙が会にも届いている。
- 日本からの団体旅行が計画されている。
- ◆東京都への要望は効果的であった。
- ◆京都で共修継続があらぶまれている。
- △討議・決定事項▽
- ◆四月会議に本会から六名参加
- ◆総会について
- '79年度総括 ●'79年度決算 ●'80年度方針
- '80年度決算 ●参加のよびかけについて
(佐藤 慶子)

四月六日

総会のあと、世話人会を行い、次のことを決めました。

- ◆コペンハーゲンの「フォーラム」参加に関

連して、会、の英語名をきめる。

The group for demanding domestic science for both sexes

- ◆フォーラムに梶谷・中嶋2名が参加する。

◆呼びかけ文の印刷はタイプ印刷で、昨年購入のオレンジの紙を使用する。

- ◆会報夏号の発行について

●発行日六月一日。発送日五月三十一日。

- 記事の内容大体きまる。

◆国会集中審議を聞いて、文部省への要望書を送ること。内容は四月二十三日世話人会。

◆埼玉県行動計画について県へ要望書を送ること。内容は四月二十三日世話人会。

◆日本PTA全国協議会大会(大分)で呼びかけ文を配ること。(青山 和世)

四月二十三日

△討議事項▽

◆国連の差別撤廃条約に関する文部省への要望書と、埼玉県行動計画に対する要望書の内容を検討、送附のしかたをきめる。

◆会費未納者に送る便りの検討。

◆映画「クレイマー、クレイマー」について

毎日新聞「記者の目」を書いた松島氏への便りを検討、送ることをきめる。

「クレイマー、クレイマー」は父親の勝利の映画。だがクレイマー氏が自立したい妻

の願いを理解し、生活的な力を持って子どもにも深くかわわってあげれば、クレイマー夫人は家を出る必要はなかったであろう。

家庭科の男女共修を」という趣旨。

◆会、の英語名について Domestic Science

と Home Economics のどちらを使うべきか更に検討することとする。

◆夏のPTA全国協議会等各集会でのアピールについて検討。

△報告事項▽

◆自民党の回答をきびしく催促した。

◆'80年度世話人の確認

◆授業参観の交渉経過

◆オレンジ・パンフができたので、ピンク・パンフと合わせて宣伝すること。

(半田たつ子)

フォーラム参加について

民間女性の集会「フォーラム」は、政府間の一九八〇年世界会議に平行して七月十四日から二十四日までデンマークのコペンハーゲンで開かれます。

経験の交流を主な目的とするもので、決議や決定は行わないとのこと。

会、としては、運動についての報告とパンフレット等の展示を行う予定で準備をすすめています。

(編集部)

パンフレットを活用してください

黄・赤・ピンク・オレンジ、あかるい楽しい色で、本会編集のパンフレットが四種類そろいました。黄は「家庭科の男女共修をめぐる一問一答」、赤は「男女共修の家庭科で何を教えるか」、ピンクは「技術・家庭科の男女共修をどうすすめるか」、オレンジは「家庭一般の男女共修をどうすすめるか」です。

特にピンクとオレンジは、新教育課程の実施を目前にして、共修実現のために、何から手をつけるべきかを模索している現場の先生方に、手がかりを提供するものと自負しています。

地域ぐるみの取り組みや、学校の教育方針に位置づけた実践の例は、あなたに、一人で悩んでいないで、心を開いて皆に問題を投げかけようと呼びかけます。領域別の授業報告は、これならやれる。やってみよう、あなたの抵抗感を除くでしょう。定時制高校の実践例もあります。

ピンクには、中学生の意識調査や、職業科から職業・家庭・技術・家庭へ、制度の変遷とその背景、指導要領に見る目標・内容の変

遷が載せられています。教育政策にはんろうされて迂余曲折をたどったこの教科の歴史は様々なことを考えさせ、研究者・学生の方にも役立つと思います。

オレンジには、共修の家庭一般で何を数えるか、家庭科教育研究者連盟の試案や、公立高校における「家庭一般」男女共修の実施状況のほか、最新の情報、教育専門家へのアンケート調査、男女高校生や家庭科教師のなまの声を載せました。共修実現を願う人々の熱いハートが伝わります。

家庭科の男女共修を「何のために」実現しなければならぬか。学校の内外に理解を求める時、「どのようにして」実現させるかの策を練る時、「何を」「どう」教えるかを研究し、検討する時、必ずお役に立つパンフです。家庭科の男女共修を願うあなたの両手に、ピンク・オレンジ・パンフを。

片手にピンク 片手にオレンジ

パンフレットの必要部数を事務局へ郵便でお知らせくださればお送りします。
現物が着きましたら、代金と送料を郵便振替(東京九一―九一八九二)でお送りください。代金と送料は次の通りです。

題 名	代 金	送 料
◆家庭科の男女共修をめぐる一問一答	100円	70円
◆男女共修の家庭科で何を教えるか	200円	140円
◆技術・家庭科の男女共修をどうすすめるか	300円	140円
◆家庭一般の男女共修をどうすすめるか	300円	140円

なお、ドメス出版刊の「家庭科、なぜ女だけ?」男女共修をすすめる会の歩みは、左記にお申し込みください。(一七〇〇円)

東京都豊島区駒込一―三五―二

電話〇三・九四四―五六五―

振替東京八―四八七六六

ドメス出版

(世話人会)

★会費をお納めください

総会の報告にもありましたように、今年度の会費は年間二千五百円に決まりました。郵便振替（東京九一九一八九一）で納入してください。五十円、十円の切手でも結構です。

去年はカンパが多かったこと（現金のほかには、はがきによるカンパもありました）と、集会にお金をかけなかったため（授業参観をしたり、世話人を報告者とした）、結果的にはかなりの繰り越し金が出ましたが、今年はお存じのように諸物価が上がり、特に直接影響の大きい郵便代値上げがありますので、やりくりは、苦しくなることが予想されます。それでも納入率が高くなれば当分再値上げはしないですむはずですので、よろしくご協力をお願いいたします。

なお、いつも申しますように、カンパは大歓迎です。振替用紙にカンパと書いて郵便振替で、あるいは少額の切手でも願います。

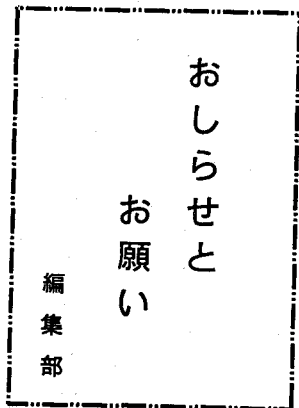
★連絡をお早く

住所、氏名等の変更の場合は、できるだけ

早く事務局に郵便でお知らせください。（専従者はいませんので、ふだんは電話では連絡がつかません。緊急の場合の電話は〇三一九四五一六二六四半田または馬場にお願います。）

★新しいちらしが出来ました

入会申込書のついた入会勧誘用の新しいちらしができました。地域や職場や各種の集会で配布してください。必要枚数を事務局までおし



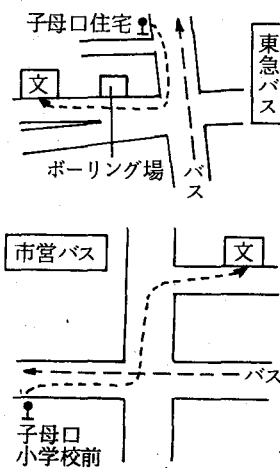
ばお送りします。ちらしは無料です。

★相談をお寄せください

'80年春号には「相談室」のページを設けましたが、その後ご相談が寄せられないのでこの号ではお休みにしました。どうぞ家庭科共修にかかわりのある問題でしたら何でも気軽にご相談ください。

★授業参観ご希望の方へ

当日午前十時または午後〇時三十分、東橋中学校被服室（二階）においでください。南武線新城駅下車、バスで一〇分です。蟹谷行又は綱島行に乗り、東急バスなら子母口住宅前下車徒歩五分、市営バスなら子母口小学校前下車徒歩三分です。



新城へは川崎から南武線で二十分。または立川から南武線。新宿からなら小田急で登戸まで行って（十八分）南部線に乗り換え。渋谷からなら東横線小杉（十五分）乗り換え。参加費三百円。

お弁当の注文はできるそうです。

お問い合わせは夜〇三―四六六―二六六五（和田）へお願いします。

なお、東橋中学校の電話は〇四四―七六六一―六四九です。